

はじめに

1、各個人のレポート内容について

私たちAグループは『現代政治に向き合う』という大きなテーマのもと、各個人で関心のあることについてレポートを書いてきた。はじめに、Aグループのメンバーが著したレポートの内容について大まかに説明していく。なお、数名の人は匿名でレポートを紹介することとする。

一番目の惣山さんは、「地域資源としての馬 ～祭りに焦点を当てて～」という題名で、馬が関わる祭りやそのコストについて考察したうえで、馬が地域資源になりうるかどうかということ述べている。

二番目の著者は、「福島原発問題 ～農家の風評被害問題～」という題名のもと、福島の農産物の風評被害や、農家と消費者の間にある関係を分析しながらこれからすべき対策を提案している。

三番目の著者は、「TPPの農業分野に対する地方と首都圏の考え方の違い」という題名で、住む地域によってTPPの農業問題に対する考え方が違うのではないかという考えのもと、これから日本の農業はどうしていくべきかということ述べている。

四番目の著者は、「マイナンバーの安全性 一人個人情報保護法と国民意識」という題名で、マイナンバー制度について詳しくまとめたうえで、その制度の危険性やそれによって期待されることなどを考察している。

五番目の著者は「新国立競技場の問題を考える」という題名のもと、新国立競技場の第一デザイン案がどうして廃案となったかを様々な観点から考察し、問題点を見つけ出したうえで現実的な解決策を提案している。

六番目の著者は、「文化と政治の関連性があるかどうか ー中国の歴史上の作品と人物から見る」という題名のもと、中国の昔の詩や近代史の出来事からぶんかと政治が離れがたい関係にあるという結論を導いている。

2、レポートから導かれる共通点

メンバーそれぞれが全く異なることを題材にして書いてきたレポートではあるが、そのうちいくつかのレポートからうっすらと共通点が浮かび上がってきた。その共通点とは、日本政府の諸対応の甘さに対する問題視である。例えば福島原発問題やマイナンバー制度など、様々な点で政府の対応にほころびが出ており、それを問題視したり改善すべきだと思ったりした人が多かったようだ。確かに、日本政府も多くの問題を解決しなければならず手が行き届かない部分もあると思う。しかし、あまりにも無計画でものごとを進めていると感じている人が多いというのが私たちAグループの総意だ。

政府の諸対応の甘さによって発生する様々な問題について、各個人が文献、自らの経験、その分野に詳しい人の意見など様々な情報をもとに解決策や提案を考えてきた。その道の専門家ではなく学生が著したものであるため、いくつか的外れなことが書いてあるかもしれない。しかし、専門家の目からは見えない学生だからこそ発見できた意見があると思うのでそこに着目して、ぜひこのレポート集を最後まで読んでいただきたい。